

## 研究 2

### 第 3 章 本調査

#### 教師のストレスにおける教師同僚性の効果

##### 第 1 節 目的

予備調査で作成した教師同僚性尺度を使用し、因子構造を明らかにする。教師同僚性尺度の信頼性と妥当性を明らかにする。教師ストレスと教師同僚性との関連を検討する。本研究における仮説は以下の通りである。

**仮説 1** 教師のストレスの高低により、教師同僚性に違いがある。

**仮説 2** 教師のストレスは、校種（小学校・中学校）で違いがある。

##### 第 2 節 方法

小中学校教師（講師含む）を対象にした質問紙調査を行った。調査対象者、調査時期、調査内容は、以下のとおりである。

###### 1. 調査対象者

B 県内の小中学校教職員 400 名に質問紙を配布した。質問紙を配布した 400 名のうち 358 名から回答を得た（回収率 89.5 %）。全回答者のうち、回答漏れのあった 16 名を対象外とした。最終的に回答に不備のない 342 名を分析対象とした（有効回答率 85.5 %）。

###### 2. 調査手続き

個別記入形式の質問紙調査で実施した。各学校の校長教頭から教師へ配布された。調査においての説明とプライバシー保護について記した説明書を添付した。回答はいずれも無記名で行われた。回答は学校内または自宅で回答してもらい、封筒に入れ、回収は留置法により郵送してもらった。

**3. 調査時期** 2011 年 7 月から 8 月上旬にかけて実施した。

###### 4. 調査内容

###### ①教師用ストレス尺度

田中・杉江・勝倉（2003）の教師用ストレス尺度を使用した。61項目で構成されている。ストレスの経験度と嫌悪度双方の回答には、相関の高さが指摘されていることも考慮し、経験度に限って分析されている。「なかった」（1点）から「いつもあった」（5点）までの5件法で回答を求めた。得点が高いほどストレスが高いことをあらわしている。

## ②教師同僚性尺度（自作）

予備調査で作成した教師同僚性尺度を用いた。31項目で構成されている。「全くない」（1点）、「ほとんどない」（2点）、「かなりある」（3点）、「とてもよくある」（4点）の4件法で回答を求めた。得点が高いほど教師の同僚性が高いことをあらわしている。

## ③同僚性尺度

秋田・恒吉・村瀬・杉澤（2004）が作成した同僚性尺度を用いた。17項目で構成されている。秋田ら（2004）はこの尺度は「授業」「一般的話題」「学級経営・行事」「私生活」の5下位尺度で構成されている。「授業」（9項目）、「一般的話題」（3項目）、「学級経営・行事」（3項目）、「私生活」（2項目）を使用し、「全くない」（1点）、「ほとんどない」（2点）、「かなりある」（3点）、「とてもよくある」（4点）の4件法で回答を求めた。得点が高いほど同僚性が高いことをあらわしている。

## 第3節 結果

### 1. 尺度構造と内容

#### （1）教師用ストレス尺度の平均値と信頼性

教師用ストレス尺度の構造は田中・杉江・勝倉（2003）らによって、職員との関係、煩雑な仕事、多忙、児童生徒との関係、教師からの評価、部活動指導、校務分掌、保護者からの評価、個別指導に分かれることが確認されている。性・校種・教職経験年数によるストレス経験度の差では男性よりも女性の方が高く、中学校より小学校の得点が高い傾向にあることが確認されている（田中・杉江・勝倉，2003）。

本調査においては、職員との関係（9項目）は、平均値 20.95、標準偏差値 5.91、 $\alpha$ 係数.88であった。煩雑な仕事（10項目）は、平均値 27.01、標準偏差値 6.58、 $\alpha$ 係数.84であった。多忙（8項目）は、平均値 26.65、標準偏差値 6.70、 $\alpha$ 係数.87であった。児童

生徒との関係（6項目）は、平均値 15.32，標準偏差値 4.08， $\alpha$ 係数.86であった。教師からの評価（9項目）は、平均値 21.94，標準偏差値 5.46， $\alpha$ 係数.79であった。部活動指導（4項目）は、平均値 7.26，標準偏差値 3.21， $\alpha$ 係数.79であった。校務分掌（5項目）は、平均値 12.02，標準偏差値 3.59， $\alpha$ 係数.73であった。保護者からの評価（5項目）は、平均値 11.88，標準偏差値 3.32， $\alpha$ 係数.75であった。個別指導（5項目）は、平均値 12.65，標準偏差値 12.69， $\alpha$ 係数.62であった。個別指導の $\alpha = .62$ はやや低めであったが.62～.88の範囲で概ね十分な値を示しており，内的整合性があることが確認された（Table6）。

**Table 6** 教師用ストレス尺度（田中他，2003）の項目の信頼性分析結果及び I-T 相関

| 項目番号                                     | 項目内容                   | 平均値  | SD    | I-T 相関 |
|--|------------------------|------|-------|--------|
| <b>職員との関係（<math>\alpha=.88</math>）</b>   |                        |      |       |        |
| 07                                       | 教師間で意思の疎通がはかれない        | 2.49 | .912  | .470   |
| 08                                       | 管理職との意見の食い違い           | 2.10 | .876  | .492   |
| 25                                       | 自分の考えと一致しない指導をする       | 2.33 | .872  | .546   |
| 28                                       | 教師間で教育観・価値観の違いを感じる     | 2.64 | .967  | .582   |
| 34                                       | 教師間での協力が得られない          | 2.16 | .883  | .557   |
| 41                                       | 他の教師の児童・生徒に対する態度への疑問   | 2.58 | .968  | .473   |
| 47                                       | 同僚の他の教員に対する態度への疑問      | 2.34 | .985  | .500   |
| 48                                       | 管理職の指導力への不信            | 2.07 | .907  | .402   |
| 49                                       | 職員会議が効率的に進まない          | 2.24 | .901  | .411   |
| <b>煩雑な仕事（<math>\alpha=.84</math>）</b>    |                        |      |       |        |
| 04                                       | 校務分掌関係の会議              | 2.81 | 1.008 | .560   |
| 32                                       | 児童・生徒の成績を評価する          | 2.89 | 1.121 | .608   |
| 33                                       | 校外の研修会への参加             | 2.61 | .986  | .574   |
| 36                                       | 職員朝会がながびく              | 2.17 | 1.002 | .430   |
| 37                                       | 学校行事の事前指導              | 2.60 | .966  | .631   |
| 39                                       | 授業にかかわる施設・設備が不十分である    | 2.87 | 1.067 | .568   |
| 40                                       | 校内の研修会への参加             | 2.64 | .945  | .627   |
| 45                                       | 諸帳簿の記入                 | 3.07 | 1.038 | .526   |
| 55                                       | 清掃指導                   | 2.62 | 1.070 | .439   |
| 61                                       | 給食指導                   | 2.72 | 1.163 | .534   |
| <b>多忙（<math>\alpha=.87</math>）</b>       |                        |      |       |        |
| 16                                       | 教材研究の時間がない             | 3.55 | 1.104 | .566   |
| 19                                       | 家に仕事を持ち込むこと            | 3.45 | 1.231 | .509   |
| 21                                       | 個別指導の時間がとれない           | 3.16 | 1.081 | .615   |
| 24                                       | 休憩時間にも仕事が入る            | 3.37 | 1.206 | .548   |
| 29                                       | 予定外の仕事が入る              | 3.05 | .992  | .681   |
| 35                                       | 自分の時間がない（趣味などをする時間がない） | 3.32 | 1.235 | .522   |
| 42                                       | 家族と過ごす時間がとれない          | 2.93 | 1.270 | .532   |
| 44                                       | 児童・生徒に接する時間が授業時間外にとれない | 2.79 | 1.137 | .617   |
| <b>児童生徒との関係（<math>\alpha=.86</math>）</b> |                        |      |       |        |
| 01                                       | 児童・生徒がいうことを聞かない        | 2.77 | 1.046 | .390   |
| 02                                       | 思い通りに授業が進まない           | 2.91 | .971  | .435   |
| 10                                       | 児童・生徒が心を開いてくれない        | 2.27 | .805  | .529   |
| 11                                       | 学習指導の成果が上がらない          | 2.81 | .903  | .513   |

|   |      |       |      |
|---|------|-------|------|
| 15 児童・生徒を理解できない                           | 2.39 | .795  | .498 |
| 20 児童・生徒に信頼されてない                          | 2.17 | .767  | .554 |
| <b>教師からの評価 (<math>\alpha=.79</math>)</b>  |      |       |      |
| 05 研究授業の準備と実施                             | 3.04 | 1.076 | .510 |
| 14 管理職の細部にわたる指導                           | 2.06 | .894  | .460 |
| 17 対外行事に向けての指導                            | 2.58 | 1.090 | .612 |
| 18 授業参観や懇談会                               | 2.93 | 1.025 | .575 |
| 26 苦手な教科を担当する                             | 2.20 | 1.075 | .442 |
| 30 各種作品展への出品 (作文, 絵, 工作など)                | 2.37 | 1.072 | .550 |
| 43 地域の活動に教師として参加する                        | 2.29 | .975  | .473 |
| 46 研究授業で満足な結果が得られない                       | 2.35 | .963  | .514 |
| 50 校則にかかわる指導                              | 2.13 | .788  | .491 |
| <b>部活動指導 (<math>\alpha=.79</math>)</b>    |      |       |      |
| 03 部活動のための勤務時間外の指導 (小学校は課外活動)             | 2.38 | 1.241 | .416 |
| 12 部活動の成績に対する成績に対する周囲の期待                  | 1.56 | .874  | .345 |
| 51 専門外の部活動の指導                             | 1.61 | .983  | .311 |
| 57 部活動での児童・生徒の人間関係の調整                     | 1.73 | .974  | .393 |
| <b>校務分掌 (<math>\alpha=.73</math>)</b>     |      |       |      |
| 09 年次休暇がとりにくい                             | 1.87 | .929  | .446 |
| 22 希望でない校務分掌の担当                           | 2.53 | 1.000 | .493 |
| 27 校務分掌の仕事の偏り                             | 2.51 | 1.106 | .590 |
| 52 P T A活動                                | 2.55 | .999  | .540 |
| 58 校務分掌の兼務                                | 2.56 | 1.118 | .589 |
| <b>保護者からの評価 (<math>\alpha=.75</math>)</b> |      |       |      |
| 13 保護者との意見の食い違い                           | 2.41 | .819  | .523 |
| 53 他の教師からの評価                              | 2.22 | .911  | .573 |
| 54 私的な場でも先生とみられる                          | 2.72 | 1.120 | .531 |
| 59 管理職による評価                               | 2.15 | .895  | .562 |
| 60 保護者からの批評                               | 2.38 | .917  | .547 |
| <b>個別指導 (<math>\alpha=.62</math>)</b>     |      |       |      |
| 06 家庭訪問                                   | 2.23 | 1.033 | .491 |
| 23 保護者の協力が得られない                           | 2.14 | .778  | .452 |
| 31 不登校の児童・生徒に対する指導                        | 2.32 | 1.213 | .321 |
| 38 問題行動をもつ児童・生徒の指導                        | 3.08 | 1.045 | .542 |
| 56 クラスの人間関係の調整                            | 2.83 | 1.119 | .580 |

## (2) 教師同僚性尺度（自作）の因子分析結果

まず、教師同僚性尺度項目 31 項目の平均値、標準偏差を算出した (Table7)。平均値と標準偏差から天井効果 ( $M+SD \geq 4$ )、フロア効果 ( $M-SD \leq 1$ ) の有無を検討した。該当する項目はなかった。

31 項目に対して主因子法、プロマックス回転による因子分析を行った。固有値の減衰状況、因子の解釈可能性から 4 因子が妥当であると判断した。因子を 4 に固定し、プロマックス斜交回転を行い、因子負荷量が .30 未満の項目および複数の因子において、.30 以上の因子負荷量を示す項目を削除した (Q=5 「同僚の先生の仕事がたまってしまった時、声をかけたり、励ましている」、Q=11 「子ども達の様子について気軽に情報交換している」、Q=17 「保護者との対応について相談している」、Q=23 「仕事で大変そうとき手伝ってあげたり、アドバイスしている」 Q=24 「同僚に対して励ましたり、支えたりしている」 Q=31 「かげで同僚の先生の批判をしている」(逆転項目)」。その結果、Table8 に示すような 4 因子構造を得た。第 1 因子には、同僚の先生方の良さを見ようとしている、明るく元気な挨拶・返事を心がけている、などコミュニケーションに関わる項目が高い負荷量を示していることから、「コミュニケーション」と命名した。第 2 因子には、普段授業の展開などを相談し計画をしている、授業等の指導案を一緒に作成している、などの項目が高い負荷量を示していることから、「授業」と命名した。第 3 因子には、気軽に同僚に悩みを話している、私的な話 (子育て・家庭での出来事・その他) をしている などの項目が高い負荷量を示していることから、「自己開示性」と命名した。第 4 因子には、職員会では気軽に発言している、授業研究会では気軽に話ができるなどの項目が高い負荷量を示していることから、「積極的発言・独自性」と命名した。

内的整合性を検討するために、各因子別に Cronbach の  $\alpha$  係数は、「コミュニケーション」「授業」「自己開示性」および「積極的発言・独自性」の順に .88, .85, .82, .72 であり、十分な信頼性が確認された。これらの  $\alpha$  係数は分析に耐えられる範囲であると判断した。4 つの因子間の相関は、Table 8 に示した。

各因子に含まれる項目の得点を合計し、それぞれ「コミュニケーション」得点、「授業」得点、「自己開示性」得点、「積極的発言・独自性」得点として、今後の分析に使用することとした。

**Table 7** 教師同僚性尺度の項目の平均値と標準偏差

| 項目   | 平均値  | SD   |
|--|------|------|
| 01 気軽に同僚に悩みを話している                          | 2.62 | .731 |
| 02 同僚の先生が困っている時に、進んで声をかけている                | 2.74 | .613 |
| 03 職員会などで決めたことに対して協力して動いている                | 3.00 | .478 |
| 04 職員室や同僚の前で気楽に弱音を吐いている                    | 2.64 | .752 |
| 05 同僚の先生の仕事があまってしまった時、声をかけたり、励ましている        | 2.79 | .624 |
| 06 授業について同僚と具体的に話をしている                     | 2.70 | .726 |
| 07 授業をお互いに見合ったりしている                        | 2.23 | .714 |
| 08 プリント等の教材を共有して使っている                      | 2.63 | .817 |
| 09 授業等の指導案を一緒に作成している                       | 2.21 | .776 |
| 10 普段授業の展開などを相談し計画をしている                    | 2.48 | .772 |
| 11 子ども達の様子について気軽に情報交換している                  | 3.19 | .653 |
| 12 慰労会・職員旅行など進んで参加している                     | 3.01 | .698 |
| 13 自分の健康・体などについて話をしている                     | 2.42 | .721 |
| 14 私的な話（子育て・家庭での出来事・その他）をしている              | 2.56 | .698 |
| 15 自分の独自性を発揮している                           | 2.60 | .672 |
| 16 生徒指導では統一した指導（決められた対応）をしている              | 2.97 | .595 |
| 17 「保護者との対応」について相談している                     | 2.93 | .664 |
| 18 「ご苦労様」「お疲れ様」など、ねぎらいの言葉をかけている            | 3.26 | .597 |
| 19 明るく元気な挨拶・返事を心がけている                      | 3.19 | .614 |
| 20 授業研究会では気軽に話ができる                         | 2.70 | .677 |
| 21 職員会では気軽に発言している                          | 2.46 | .760 |
| 22 児童・生徒の対応について話をしている                      | 3.03 | .577 |
| 23 仕事で大変そうなとき手伝ってあげたり、アドバイスしている            | 2.77 | .597 |
| 24 同僚に対して励ましたり、支えたりしている                    | 2.81 | .598 |
| 25 学年通信（学級通信）など同僚に見てもらったり、アドバイスをもらったりしている。 | 2.78 | .811 |
| 26 管理職とよく話をし、コミュニケーションがとれている               | 2.77 | .640 |
| 27 同僚の先生に対して優しく接している                       | 2.99 | .514 |
| 28 授業研究等、授業者の願いを大切にしている                    | 2.96 | .551 |
| 29 研究授業から学ぼうとしている                          | 3.04 | .569 |
| 30 同僚の先生方の良さを見ようとしている                      | 3.14 | .521 |
| 31 かげで同僚の先生の批判をしている※逆転項目                   | 3.12 | .632 |

**Table 8** 教師同僚性尺度の分析結果（主因子法・プロマックス回転）

| 項 目  | 因 子          |       |        |        |        |
|--|--------------|-------|--------|--------|--------|
|  | I            | II    | III    | IV     |        |
| <b>I コミュニケーション (<math>\alpha=.884</math>)</b>  |              |       |        |        |        |
| 30 同僚の先生方の良さを見ようとしている                          | .907         | -.106 | .010   | -.127  |        |
| 19 明るく元気な挨拶・返事を心がけている                          | .804         | -.145 | -.053  | .034   |        |
| 27 同僚の先生に対して優しく接している                           | .761         | -.019 | .063   | -.197  |        |
| 29 研究授業から学ぼうとしている                              | .754         | .079  | -.149  | -.027  |        |
| 18 「ご苦労様」「お疲れ様」など、ねぎらいの言葉をかけている                | .727         | -.031 | -.008  | .017   |        |
| 28 授業研究等、授業者の願いを大切にしている                        | .592         | .113  | -.117  | .189   |        |
| 16 生徒指導では統一した指導（決められた対応）をしている                  | .498         | .105  | -.001  | .109   |        |
| 3 職員会などで決めたことに対して協力して動いている                     | .490         | -.004 | .199   | -.014  |        |
| 22 児童・生徒の対応について話をしている                          | .432         | -.013 | .220   | .183   |        |
| 12 慰労会・職員旅行等など進んで参加している                        | .431         | .052  | .050   | .076   |        |
| 25 学年通信（学級通信）など同僚に見てもらったり、アドバイスをもらったりしている      | .402         | .296  | -.047  | -.092  |        |
| 26 管理職とよく話をし、コミュニケーションがとれている                   | .344         | .123  | -.002  | .263   |        |
| <b>II 授業 (<math>\alpha=.851</math>)</b>        |              |       |        |        |        |
| 10 普段の授業の展開などを相談し計画をしている                       | -.002        | .831  | .059   | -.108  |        |
| 9 授業等の指導案と一緒に作成している                            | -.150        | .727  | -.038  | .178   |        |
| 8 プリント等の教材を共有して使っている                           | .089         | .706  | -.032  | -.119  |        |
| 7 授業をお互いに見合ったりしている                             | -.039        | .691  | -.008  | .101   |        |
| 6 授業について同僚と具体的に話をしている                          | .104         | .604  | .213   | -.033  |        |
| <b>III 自己開示性 (<math>\alpha=.823</math>)</b>    |              |       |        |        |        |
| 1 気軽に同僚に悩みを話している                               | -.009        | .056  | .805   | -.219  |        |
| 14 私的な話（子育て・家庭での出来事・その他）をしている                  | -.034        | -.069 | .771   | .070   |        |
| 4 職員室や同僚の前で気楽に弱音を吐いている                         | -.035        | .070  | .715   | -.050  |        |
| 3 自分の健康・体などについて話をしている                          | -.104        | .064  | .653   | .144   |        |
| 2 同僚の先生が困っている時に、進んで声をかけている                     | .197         | -.059 | .480   | .111   |        |
| <b>IV 積極的発言・独自性 (<math>\alpha=.725</math>)</b> |              |       |        |        |        |
| 21 職員会では気軽に発言している                              | -.101        | -.097 | -.007  | .919   |        |
| 2 授業研究会では気軽に話ができる                              | .047         | .193  | -.093  | .658   |        |
| 15 自分の独自性を発揮している                               | .145         | -.105 | .281   | .404   |        |
|  | 因子寄与率 (%)    | 34.74 | 8.977  | 6.742  | 6.496  |
|  | 累積寄与率 (%)    | 34.75 | 43.717 | 50.460 | 56.955 |
| 因子間相関  | I コミュニケーション  |       | .501   | .566   | .434   |
|  | II 授業        |       |        | .535   | .422   |
|  | III 自己開示性    |       |        |        | .412   |
|  | IV 積極的発言・独自性 |       |        |        |        |

因子分析より除外された項目：「31 かげで同僚の先生の批判をしている（逆転項目）」「5 同僚の先生の仕事がたまってしまった時、声をかけたり、励ましている」「24 同僚に対して励ましたり、支えたりしている」「23 仕事で大変そうなとき手伝ってあげたり、アドバイスしている」



### (3) 同僚性尺度の信頼性

同僚性尺度の構造は、秋田・恒吉・村瀬・杉澤（2004）らによって、授業の探求、一般的話題、学級経営・行事、私生活に分かれることが明らかになっている。本調査においては、授業（9項目）は、平均値 22.22、標準偏差値 4.60、 $\alpha = .88$ であった。一般的話題（3項目）は、平均値 6.63、標準偏差値 1.63、 $\alpha$ 係数.72であった。学級経営・行事（3項目）は、平均値 8.52、標準偏差値 1.78、 $\alpha$ 係数.88であった。私生活（2項目）は、平均値 4.92、標準偏差値 1.31、 $\alpha$ 係数.79であった (Table 9)。

本研究において同僚性尺度の全項目を今後の分析に使用することとする。

**Table 9** 同僚性尺度（秋田他, 2004）の項目の信頼性結果

| 項目番号                                     | 項目内容                   | 平均値  | S D  |
|--|------------------------|------|------|
| <u>授業の探求 (<math>\alpha=.88</math>)</u>   |                        |      |      |
| 03                                       | 研究授業について具体的に話し合う       | 2.82 | .680 |
| 04                                       | 他の教師の研究授業を見る           | 2.63 | .649 |
| 05                                       | 相互に作成した教材やシートなどを貸し借りする | 2.39 | .799 |
| 06                                       | 研究授業の指導案と一緒に作成する       | 2.57 | .810 |
| 07                                       | 効果的な指導方法について話し合う       | 2.65 | .700 |
| 08                                       | 単元の授業展開を相談し計画する        | 2.49 | .742 |
| 09                                       | 自分が行った授業の様子を互いに紹介する    | 2.40 | .734 |
| 11                                       | 授業の教材などを同僚と一緒に作成する     | 2.19 | .728 |
| 16                                       | 最近読んだ本の中で授業に役立つものを紹介する | 2.06 | .622 |
| <u>一般的话题 (<math>\alpha=.72</math>)</u>   |                        |      |      |
| 10                                       | 自身の健康管理について話しをする       | 2.15 | .685 |
| 13                                       | ニュースなどの社会問題について話しをする   | 2.38 | .686 |
| 14                                       | 教育改革の動向などについて話しをする     | 2.10 | .656 |
| <u>学級経営・行事 (<math>\alpha=.88</math>)</u> |                        |      |      |
| 01                                       | 学校行事について話し合う           | 2.83 | .661 |
| 02                                       | 保護者への対応について話し合う        | 2.87 | .658 |
| 17                                       | 学級経営や特定の児童生徒について話し合う   | 2.22 | .685 |
| <u>私生活 (<math>\alpha=.79</math>)</u>     |                        |      |      |
| 12                                       | 教師自身の私生活や家庭について話しをする   | 2.51 | .725 |
| 15                                       | 趣味や休日のことについて話しをする      | 2.40 | .715 |

#### (4) 教師同僚性の妥当性

教師同僚性尺度の妥当性を検討するために、教師同僚性4因子と同僚性4因子（授業の探求、一般的話題、学級経営・行事、私生活）の相関係数を算出した。結果を Table10 に示す。

教師同僚性尺度4因子と同僚性尺度4因子の相関係数を調べた結果、「コミュニケーション」および「授業」は、同僚性尺度のうちの「授業の探求」との間に.454と.785の正相関（コミュニケーション、授業の順。以下同じ）の値を示し、「自己開示性」および「積極的発言・独自性」との間に.446と.323の正相関の値を示した。

「コミュニケーション」および「授業」は、同僚性尺度のうちの「一般的話題」との間に.286と.379の正相関の値を示し、「自己開示性および積極的発言・独自性との間に.525と.334の正相関の値を示した。コミュニケーションおよび授業は、同僚性尺度のうちの学級経営・行事との間に.453と.379の正相関の値を示し、自己開示性および積極的発言・独自性との間に.512と.270の正相関の値を示した。コミュニケーションおよび授業は、同僚性尺度のうちの私生活との間に.360と.391の正相関の値を示し、自己開示性および積極的発言・独自性との間に.626と.273の正相関の値を示した。

教師同僚性尺度と同僚性尺度は.273～.785（弱い相関から強い相関）までの正の相関があった。

この結果より、筆者が作成した教師同僚性尺度の妥当性はほぼ十分であると考えられた。

**Table 10** 教師同僚性尺度（自作）と同僚性尺度（秋田他, 2004）の相関係数（N=342）

| 教師同僚性   | コミュニ<br>ケーション | 授業     | 自己開示性  | 独自性・積極的発言 |
|---------|---------------|--------|--------|-----------|
| 同僚性     |               |        |        |           |
| 授業の探求   | .454**        | .785** | .446** | .323**    |
| 一般的話題   | .286**        | .379** | .525** | .334**    |
| 学級経営・行事 | .453**        | .379** | .512** | .270**    |
| 私生活     | .360**        | .391** | .626** | .273**    |

注) \*\* $p < .01$

## 2 (仮説1) 教師のストレスの高低により、教師同僚性に違いがある

この仮説を検証するために、教師ストレス尺度得点(高・低群)による教師同僚性得点の差に注目した。調査対象者を得点で2群(高群, 低群)に分けて検討することとした。

各尺度の基本統計量を Table11 に示した。教師用ストレス尺度得点について、得点分布 (Figure 2) および平均値 (154.72) + 1 標準偏差 (31.13) より得点の高い者を教師ストレス高群 ( $n=49$ ), 平均値 - 1 標準偏差より得点が低い者を教師ストレス低群 ( $n=49$ ) とした。独立変数を「教師ストレス (尺度得点) 高・低群」, 従属変数を「教師同僚性 (コミュニケーション, 授業, 自己開示性, 積極的発言・独自性) 得点」とする t 検定を行った (Table12)。

その結果, 「コミュニケーション」 ( $t(96) = 0.03, n.s.$ ) 「授業」 ( $t(96) = 0.44, n.s.$ ) 「自己開示性」 ( $t(96) = 0.96, n.s.$ ) 「積極的発言・独自性」 ( $t(96) = 0.12, n.s.$ ) 教師のストレス高低群において違いがあるかどうかについて有意差は認められなかった。

**Table 11** 教師用ストレス尺度（田中他, 2003）と教師同僚性得点（自作）の平均値, 標準偏差

| 全体 (N=342)    |        |       |
|---------------|--------|-------|
|               | 平均     | SD    |
| <b>教師ストレス</b> | 154.72 | 31.13 |
| 職員との関係        | 20.95  | 5.91  |
| 煩雑な仕事         | 27.01  | 6.58  |
| 多忙            | 25.64  | 6.70  |
| 児童生徒との関係      | 15.32  | 4.08  |
| 教師からの評価       | 21.94  | 5.46  |
| 部活動指導         | 7.26   | 3.21  |
| 校務分掌          | 12.02  | 3.59  |
| 保護者からの評価      | 11.87  | 3.32  |
| 個別指導          | 12.65  | 3.56  |
| <b>教師同僚性</b>  | 66.35  | 9.28  |
| コミュニケーション     | 33.36  | 4.36  |
| 授業            | 12.26  | 3.02  |
| 自己開示性         | 12.98  | 2.70  |
| 積極的発言・独自性     | 7.75   | 1.70  |

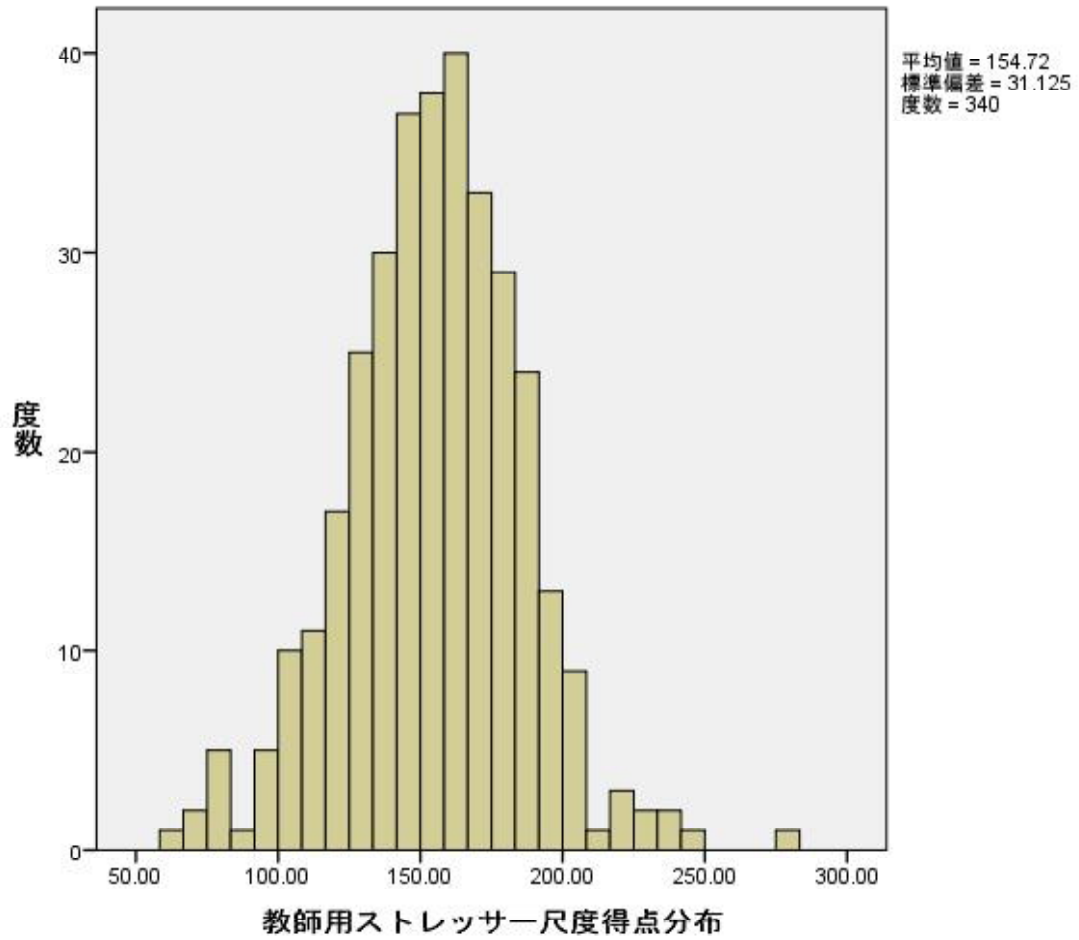


Figure 2 教師用ストレス尺度の職員との関係得点分布

**Table 12** 教師ストレス2群（高低群別）による「教師同僚性」得点比較（t検定）

|           | 教師ストレス       |              | t 値              |
|-----------|--------------|--------------|------------------|
|           | 高群 (n=49)    | 低群 (n=49)    |                  |
| コミュニケーション | 33.18 (2.96) | 33.20 (3.76) | 0.03 <i>n.s.</i> |
| 授業        | 11.78 (3.37) | 12.06 (3.07) | 0.44 <i>n.s.</i> |
| 自己開示性     | 13.16 (2.42) | 12.67 (2.63) | 0.96 <i>n.s.</i> |
| 積極的発言・独自性 | 7.61 (1.68)  | 7.65 (1.70)  | 0.12 <i>n.s.</i> |
| (教師同僚性得点) |              |              |                  |



### 3 (仮説2) 教師のストレスは、校種 (小学校・中学校) で違いがある

この仮説を検討するために、教師ストレス尺度得点 (高・低群) と校種別 (小・中学校別) の関係による教師同僚性得点の差に注目した。調査対象者を得点で2群 (高群, 低群) に分けて検討することとする。

独立変数を「教師ストレス (尺度得点) 高・低群」「小学校・中学校, 校種別」、従属変数を「教師同僚性 (コミュニケーション, 授業, 自己開示性, 積極的発言・独自性) 得点」とする2要因の分散分析を行った。

その結果、ストレス尺度得点高・低群と校種別小学校・中学校の要因について交互作用 ( $F(3,94)=ns$ ) は認められなかった (Table13)。ストレス尺度得点高・低群と校種別小学校・中学校の要因については、それぞれ単純主効果の検定を行った。その結果、校種別小学校・中学校の要因について、「授業」得点 ( $F(3,94)=4.31, p<.05$ ) において小学校教師が中学校教師よりも得点が有意に高かった。「自己開示性」得点 ( $F(3,94)=3.52, p<.10$ ) において要因の効果は有意傾向であった。教師のストレス尺度高低群において小学校教師の方が、中学校教師よりも得点が高かった (Figure3:Figure4)。

**Table 13** 教師ストレス2群の教師同僚性の平均と標準偏差と二要因分散分析結果

| 校種別       | 教師ストレス      |             |             |             | 分散分析 |                   |      |
|-----------|-------------|-------------|-------------|-------------|------|-------------------|------|
|           | 高群 (n=49)   |             | 低群 (n=49)   |             | 主効果  | 主効果               |      |
|           | 小 (n=38)    | 中 (n=11)    | 小 (n=38)    | 中 (n=11)    | 高低群  | 小中                | 交互作用 |
|           |             |             |             |             | F 値  | F 値               | F 値  |
| コミュニケーション | 32.79(4.58) | 32.64(2.46) | 33.45(3.61) | 32.36(3.96) | 0.04 | 0.40              | 0.23 |
| 授業        | 11.97(3.31) | 11.09(3.34) | 12.58(2.99) | 10.27(2.49) | 0.02 | 4.31*             | 0.86 |
| 自己開示性     | 13.21(2.39) | 13.00(2.41) | 13.13(2.58) | 11.10(2.02) | 2.74 | 3.52 <sup>†</sup> | 2.33 |
| 積極的発言・独自性 | 7.68(1.79)  | 7.36(1.07)  | 7.66(1.63)  | 7.67(1.87)  | 0.09 | 0.17              | 0.13 |

(教師同僚性得点)

(注) <sup>†</sup> p<.10      \*p<.05

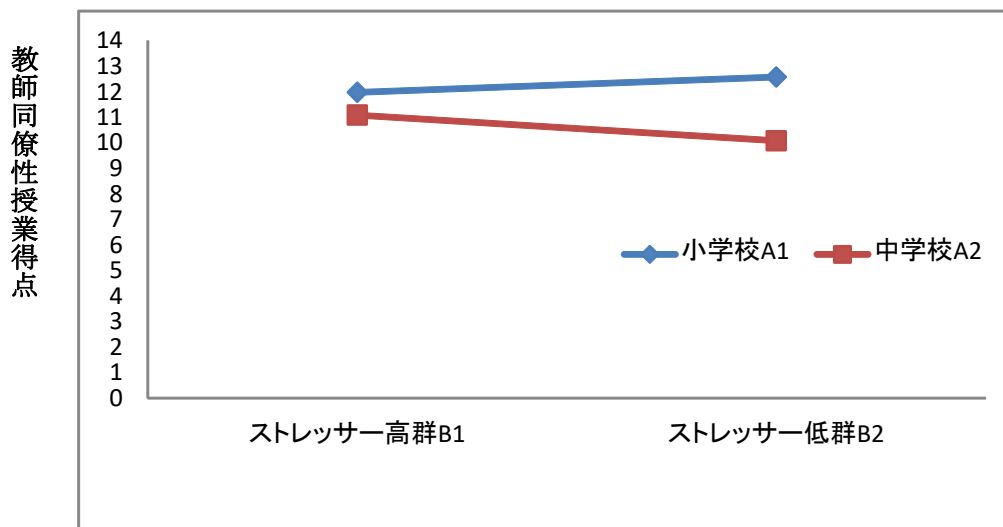


Figure 3 教師ストレスサー高低群における教師授業得点との関連

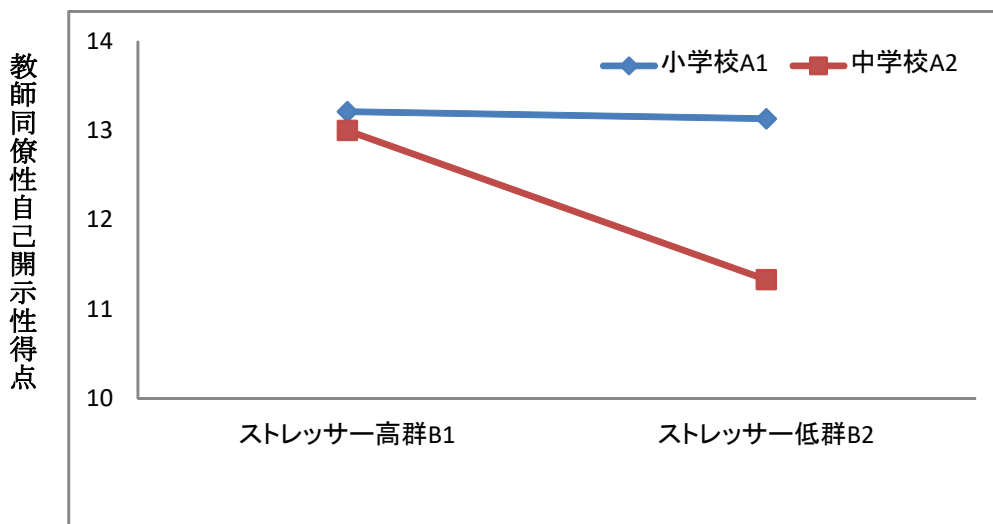


Figure 4 教師ストレスサー高低群における教師自己開示性得点との関連

## 第4節 考察

### 教師同僚性尺度の信頼性と妥当性の検討

教師同僚性尺度を作成し、信頼性と妥当性を検討した。教師同僚性尺度を作成するにあたり、同僚性尺度（秋田・恒吉・村瀬・杉澤，2004），予備調査をもとに教師同僚性尺度暫定項目について因子分析を行った結果、「コミュニケーション」「授業」「自己開示性」「積極的発言・独自性」という4因子を抽出した。

質問項目を見ると「同僚性尺度」は授業研究面を強調している。第1因子は授業に関する9項目である。「教師同僚性尺度」は27項目（因子分析で4つの項目が削除）の内、第2因子の授業は5項目となっている。第1因子を占めているのがコミュニケーション（12項目）である。「コミュニケーション」に重点がかけられている。

4下位尺度得点について、 $\alpha$ 係数を算出したところ、いずれも.83程度を示し、内的一貫性の観点における信頼性は高い尺度であると考えられる。

教師同僚性尺度の妥当性を検討するため、同僚性尺度（授業・一般的話題・学級経営行事・私生活）との関連を検討した。教師同僚性尺度の4下位尺度得点と同僚性尺度の4下位尺度得点の相関が示された。すべての相関が有意であったが、特に「授業」と「授業の探求」、「自己開示性」と「私生活」が有意な高い相関を示した。よって、教師同僚性尺度は、妥当性があると考えられる。

教師同僚性尺度（自作）の特長は、秋田他（2004）の同僚性尺度と3つの因子はほぼ同様であるが、同僚性尺度にはない「積極的発言・独自性」が含まれている。相関が.27から.33までと低いため、秋田他（2004）にはみられない因子である。その内容は「職員会では気軽に発言している」「授業研究会では気軽に話ができる」「自分の独自性を発揮している」であり、本研究で自作した教師同僚性尺度は同僚性尺度では明らかにできない、教師の同僚性を測定できると考えられた。

### 教師のストレスの高低により、教師同僚性に違いがある一仮説1の検証

独立変数を「教師ストレス（尺度得点）高・低群」、従属変数を「教師同僚性（コミュニケーション、授業、自己開示性、積極的発言・独自性）得点」とするt検定を行った。教師のストレス高群と低群における教師同僚性得点の平均を比べると差がなかったことから、教師のストレスが高い方が教師同僚性は低いとは言えなかった。

仮説1は支持されなかった。

学校現場では、多忙感、保護者との関係、次々と打ち出される教育改革、同僚や保護者との関係など、様々なストレスがかかっているが、その中でも教師は、同僚や先輩教師の励ましや支えなどによって、教師同僚性は維持されている可能性が考えられるだろう。

職場では、気軽に悩みを語り合う雰囲気も期待されており、そのような環境も維持されている可能性が考えられよう。

### 教師のストレスは、校種（小学校・中学校）で違いがある一仮説2の検証

教師ストレスを2群（高群・低群）に分けた。校種（小学校・中学校）教師ストレス・校種別を独立変数とし、教師同僚性を従属変数として2要因の分散分析を行った。

中学校ストレス低群の教師同僚性「授業」得点平均の差は、小学校に比べて低いことが明らかになった。小学校教師は日常から、授業について語り合ったり、一人一公開の授業などで、お互いの授業を見合う機会が多い可能性が考えられる。中学校教師の場合は、教科担任制であり、教科の枠を超えて自由に授業に関することを述べ合ったり、自分の担当する教科外の授業をお互い参観し合ったりする機会が少ない可能性が考えられる。その結果、授業を通しての情報交換がしにくい可能性が考えられよう。

中学校ストレス低群の教師同僚性「自己開示性」得点平均の差は小学校に比べ低いことが明らかになった。小学校教師は、ストレス高低に関係なく、「自己開示性」得点の平均の差はなかった。小学校教師は、普段から「気軽に同僚に悩みを話している」「私的な話をしている」「同僚の前で気楽に弱音をはいている」「自分の健康・体について話している」「同僚が困っている時に、進んで声をかけている」ことが多く、中学校では、ストレスをたくさん抱えている教師ほど他の同僚と自己開示しながら情報交換し、解決をはかろうとしている可能性が考えられよう。ストレス低群の中学校教師は、あまり自分を出さないでいる可能性が考えられる。

有意差は認められなかったが、教師同僚性「コミュニケーション」では小学校教師はストレスが低いほどコミュニケーションは多くされており、中学校教師はその反対であ

った。小学校教師は、ストレスが高いと学級担任という性格から一人で問題を抱え込もうとする傾向が強い可能性が考えられよう。有意差は認められなかったが、教師同僚性「積極的発言・独自性」においては小学校教師は変化が見られなかったが、中学校教師はストレスが高いほど低くなっていた。中学校教師は、ストレスが高ければ、積極的な発言も余りみられなくなり、独自性も発揮されにくい可能性が考えられる。

以上のことから、教師のストレスは、校種（小学校・中学校）で違いがあるということについて、中学校ストレス低群の教師同僚性「授業」得点平均の差は、小学校に比べて低いこと、中学校ストレス低群の教師同僚性「自己開示性」得点平均の差は小学校に比べ低いこと、など部分的な支持に留まった。